

学生海外調査研究	
舞踊家 Trisha Brown(1936-)の身体観を探る —カンパニーメンバーおよび後進への教育実践に着目して—	
氏名 白澤 舞	比較社会文化学 専攻
期間	2013年7月12日～2013年7月30日
場所	アメリカ合衆国 ニューヨーク
施設	ニューヨークシティセンター ニューヨーク公立図書館（パフォーミングアーツ別館）

内容報告

1. 調査の意義と目的

報告者は、踊る者や観る者に肯定的イメージや開放感を与える舞踊について、研究調査と教育現場での実践と考察を行ってきた。特に学位論文に向けては、1960-70年代アメリカでダンスの原点を探求したポスト・モダン・ダンスの活動家であり、半世紀に渡り旺盛な活動を続け、「インスピレーションを与える」¹「生きる喜びを感じさせる」²などのイメージを与える舞踊家Trisha Brownの思想と実践について研究を行っている。これまで彼女の舞踊作品の特徴と時代的コンテクスト、作品創作過程に見られる作品創作意図、Trisha Brown Dance Company(以下TBDC)で採用されているテクニックについて調査・分析を行ってきた。

舞踊という文化形態の研究において、なかでも舞踊家の思想を探るにあたり、すでに言語化された資料からの検討だけでなく、実践的なアプローチが必要である。舞踊は、身体の感覚や表現であり、全てを厳密に言語化することが難しいからである。また舞踊家自身によって既に言語化されているものを理解するうえでも、実際の体験によって獲得された体感や知識に基づかなければ、本人の意図を正しく解釈するのは難しい。

そのため舞踊家の思想研究において、すでに言語化された資料からの検討だけでなく、研究者自身が実際にワークショップ参加などの体験を通して実践から体感を得、その体感に基づいて実践者たちへインタビューやディスカッションをすることによって再言語化した資料からの検討という2つの方向からの探究が有効であると考えられる。

2008年に海外アカデミック・ディスカッションの助成による「舞踊家の思想に関する実践的研究」では、カンパニーメンバーから創作過程の実際について聞き取りを行い、文献調査のみの研究で即興表現とされていた作品が、実際には緻密に決定された動きで構成されていたことがわかった。舞踊という活動形態の研究において実践的研究手法が有効であることが明らかになった³。

今後、学位論文において、教育についての理念とその実践を明らかにすることで、Trisha Brownの思想の根幹をなす身体観を考察する予定である。舞踊家の思想研究において身体観を考察することは重要である。学位論文に向けてより明確な身体観を読み取るためには、これまでの研究に加え、教育という他者への意図的な働きかけを調査し考察することが必要であり、有効であると考えている。

そのため今回、学生海外派遣プログラムに参加することにより、これまでの研究成果に基づき、実践からの理論の検証を行うことができ、より正確な研究を行うことができると考えた。

そこで本調査研究の目的は、舞踊家Trisha Brownの身体観、すなわち踊る身体をどのように捉え、扱っているかについて、カンパニーメンバーや後進への教育活動に着目することで明らかにすることである。晩年を迎えているTrisha Brownが後進へ伝え残そうとするものは何か、それを実際にどのように実践に具体化しているかを明らかにすることにより、彼女がこれまでの舞踊活動の中で培ってきた思想とそれを実践へと具現化するノウハウが明確になると考えられる。さらに、国際的に舞踊芸術の地平を拓ける女性舞踊家の先駆者であるBrownの教育活動を研究することは、舞踊家Trisha Brownの思想研究にとどまらず、今後、国際的な女性リーダーの育成や、教育実践の場での応用や実用化につながる基礎研究となる点が、この調査に基づく研究の意義であり目的である。

1.2 学位論文における本調査研究の位置づけ

報告者は、国際的に活躍している舞踊家Trisha Brownの長年に渡る旺盛な創造的活動を、舞踊作品

の斬新さや変化の多様さといった外観について扱うことに加え、そのような新しさや変化を彼女自身がどのように生み出し続けているのか、創作の動機や動力といった内的な側面について実践的検証を通して明らかにすることを目的とし研究を行っている。

学位論文においては、次の3部構成で研究を進めている。

第1部において、舞踊作品をTrishaがCycleと呼んで分類している作品群ごとに、言説・批評文分析により、時代的コンテクストと照らし合わせて作品特徴と活動を概観する。

第2部において、舞踊作品の創作過程に着目し、作品創作意図、すなわち作品創作過程をどのように捉え、その中でどのように踊る身体を扱い、創作しているのかを考察する。文献・VTR資料およびインタビュー調査に加え、作品の振付けクラスを受講し、より正確な言語資料の分析を行う。

第3部において身体観、すなわち踊る身体をどのように捉え、扱っているかについて、カンパニーメンバーや後進への教育活動に着目し、考察する。

以上から、彼女にとって舞踊という創造的活動とは何かについて明らかにし、創造的活動を続けることを可能にするTrisha Brownの思想と実践を考察することを予定している。

本海外調査研究では、第3部で行う身体観の考察において基盤となる実証的資料を得たいと考えている。そのため、夏季集中クラスの参与観察により、集約され体系化されている教育実践の実際と、クラス講師およびメンバーへのインタビューによりBrownの教育方針を調査する。それにより教育の理念と実際を明らかにし、長年の舞踊活動で培い実践し伝えようとするBrownの身体観を考察することができると考えている。

2. 調査の概要

まず、TBDCにおける教育の実際を調査するため、毎年1回、2週間に渡って行われているTBDCの夏季集中クラスの参与観察を行った。2013年は、Trisha Brownが今年2月の公演を最後に、体調を理由に引退を表明したため、周囲では開催が危ぶまれていたが、ニューヨークシティセンターにおいて7月に開催され、参与観察を行うことができた。さらに、引退を表明したためか、夏季集中クラスの参与観察では、これまで行われていなかった舞踊作品の創作プロセスの実際を体験できるようプログラムされており、晩年を迎えたBrownが後進へ伝え残そうとする活動が、集約され体系化されているTrisha Brown教育実践の実際を調査することができた。夏季集中クラスでは、レクチャーが設けられており、クラス講師である元カンパニーメンバーへ質問することができる場が設けられており、インタビューを行うことができた。

加えて、クラスが開講されていない土曜日を利用し、ニューヨーク公立図書館のパフォーミングアーツ別館において資料収集を行った。ここでは特に、Trisha Brownの活動初期1960年代の雑誌記事等、日本国内では入手困難な資料を中心に調査した。

2.1 夏季集中クラス

2013年7月に行われた夏季集中クラスは、トリシャ・ブラウンの身体活動において固有のプロセスと形式を探求するよう立案されている。①テクニック&レパトリークラス、②レクチャー&ビデオ上映、③コンポジション&インプロビゼーションクラスで構成されている。前半1週間と後半1週間とに分かれており、1週のみ参加することも可能である。毎週終わりには、外部者が見ることのできる発表の場(④スタジオ・ショーイング)が設けられており、レクチャーでは、文書資料も提供され、全体を通して技術的な動きの原理、作品創作の構造、即興について深い理解を得られるようになっている。プログラム内容の詳細については次の節でクラスごとに述べる。参加対象者は、17歳以上のプロフェッショナルもしくは上級レベルのダンサーを対象として企画されている。

1週目の講師は、Irene HultmanとEva Karczagであった。Hultmanは、1983~1988年までTBDCのカンパニーメンバーであり、2006~2009年には、TBDCのリハーサルディレクターを務めていた。Karczagは、1979~1985年までTBDCのメンバーとして活動し、今回の1週目のクラスで取り扱われたダンスレパトリー《Son of Gone Fishin'》(1981)のオリジナルメンバーであった。

2週目の講師は、Carolyn LucasとLaurel Jenkins Tentindoであった。Lucasは、1984年からTBDCのメンバーであり、1993年からは、Brownのダンスやオペラ作品の創作過程で振り付け補佐としての役割も果たしてきた。Tentindoは、2007年から昨年2012年までTBDCのメンバーであり、Brownの最新4作品のオリジナルメンバーであった。

参加者は、各週とも30名以内であった。フランス、イギリス、イタリア、ドイツ、フィンランドなどヨーロッパからの参加者が多くおり、Brownのヨーロッパでの活躍を伺うことができた。また、クラスは1週間単位で受講するようプログラムされていたが、時折、元カンパニーメンバーが部分的にクラスに参加して一緒に受講するや、スタジオ・ショーイングの多くの元カンパニーメンバーが見に来ることもあり今回の集中クラスの注目度が伺えた。

表1 2013年夏季集中クラス スケジュール

2013年夏季集中クラス スケジュール 期日：2013年7月15日～26日		
7月15日 ～ 7月19日	10:00～13:00	テクニック&レパトリークラス 講師：Irene Hultman
	13:30～14:00	レクチャー&ビデオ上映 講師：Irene Hultman、Eva Karczag
	14:00～17:00	コンポジション&インプロビゼーションクラス 講師：Eva Karczag
	17:00～17:30 *19日のみ	スタジオ・ショーイング 講師：Irene Hultman、Eva Karczag
7月22日 ～ 7月26日	10:00～13:00	テクニック&レパトリークラス 講師：Carolyn Lucas、Laurel Jenkins Tentindo
	13:30～14:00	レクチャー&ビデオ上映 講師：Carolyn Lucas、Laurel Jenkins Tentindo
	14:00～17:00	コンポジション&インプロビゼーションクラス 講師：Carolyn Lucas、Laurel Jenkins Tentindo
	17:00～17:30 *26日のみ	スタジオ・ショーイング 講師：Carolyn Lucas、Laurel Jenkins Tentindo

2.1.1 テクニック&レパトリークラス

テクニック&レパトリークラスは、1日3時間のクラスで毎日行われる。ウォーミングアップと簡単なムーブメント・ワークで始まる。およそ1～1.5時間かけて身体のトレーニングを行い、TBDCのレパトリークラスを踊る準備をしていく。その後、TBDCのレパトリークラスである、ブラウンの振付作品から抽出されたフレーズを習い覚える。

具体的には、1時間程度、骨格や重心移動を意識しつつ身体ほぐしながら、身体内部のスペースを広げ、動き出しや動きの連続性のスキル、全身の隅々まで意識を高められるように導かれる。後でレパトリークラスを踊る際に要求される身体の状態を築きあげていく。簡単なムーブメント・ワークでは、ペアになり、他者に触れてもらうことによって、身体内部への気づきを促したり、他者という外部への意識を高めるトレーニングがあった。担当するクラス講師によって採用しているテクニックやアプローチが異なっていた。1週目は、アレクサンダーテクニックとマズナガテクニックをベースとしたウォーミングアップを行った。2週目はアレクサンダーテクニックとスキナーリリーシングテクニックをベースとしていた。

ウォーミングアップが終わるとレパトリークラスの振り付けを教わり覚えていく。動きの外形だけではなく、動きの始点や連続性、経路など身体内部に起こる動きにも注意が払われ、動きの構造や成り立ちまで詳細に指導された。

2.1.2 レクチャー&ビデオ上映

レクチャー&ビデオ上映は、午前と午後のクラスの間毎日30分程度行われた。ビデオを見ながら、その日のテーマに沿ってレクチャーが行われる。Brownのダンス活動への関わり方や、作品の創作過程について実際の様子や説明があった。講師たちの実体験に基づいたレクチャーで、Brownとの思い出話なども多くあり、自由に質問することもできた。

ビデオで作品を見ながら、創作過程についてのレクチャーを受けた後、午後のコンポジション&インプロビゼーションのクラスで実際に創作過程を体験する日もあった。資料としてレジュメが配布されることもあった。また、レクチャー後に、補足資料が参加者へメールで送信された。

2.1.3 コンポジション&インプロビゼーションクラス

コンポジション&インプロビゼーションクラスは、1日3時間のクラスで、毎日行われる。軽いウォーミングアップで始まる。ウォーミングアップでは、午前中にテクニッククラスを受けているので、短い時間であったが関節の開放性が強調されていた。日によって異なる方法で簡単なムーブメント・ワークを実行しインプロビゼーション（即興）を行った。

その後、テクニック&レパートリークラスで取り扱われている舞踊作品の創作過程の実際を体験することができるようになっていた。その作品がどのように形作られたのか、そのプロセスを追うことで、作品の構造と成り立ちの詳細を学ぶことができた。それと同時に、その舞踊作品の創作過程で用いられたムーブメント・ワークやアイデア、構成の手法が明らかにされた。舞踊作品の創作過程を実際に体験しながら、テクニック&レパートリークラスで習い覚えたオリジナルのムーブメントフレーズを再構成し、その作品が創作された手法を用いて新しい一連の動きを完成させるという活動を行った。

2.1.4 スタジオ・ショーイング

スタジオ・ショーイングは、毎週末に行われ、その週のテクニック&レパートリークラスで習い覚えたオリジナルフレーズと、コンポジション&インプロビゼーションクラスで創作した動きのフレーズを発表した。外部からも見に来ることができ、参加者は2名まで知人を招くことができる。元カンパニーメンバーやTBDCの関係者も見に来ていた。

はじめにクラス講師が1週間行ってきたクラスの内容について簡単に紹介する。その後、クラス講師が考えた発表のプログラムに沿って、1週間のクラスの成果として発表する。習い覚えた動きや創作した一連の動きを踊るだけでなく、他者に見せる、見られるという舞踊芸術の基本構造の中で、1週間に渡って意識が促されてきた、身体内部への集中と外部空間への意識の働かせ方など、多くの学びのフィードバックを行うことができた。

2.2 ニューヨーク公立図書館（パフォーミングアーツ別館）

ニューヨーク公立図書館のパフォーミングアーツ別館は、リンカーンセンター内のニューヨークメトロポリタン劇場の隣にあり、そのパフォーミングアーツに特化したリサーチコレクションは国際的にみても優れている。特に、ニューヨークに活動拠点をおくアーティストのリサーチコレクションは、アーティストごとに新聞・雑誌記事、講演記録等のスクラップや、VTR資料、インタビュー記録などもまとめられている。

リサーチコレクションの閲覧には、ライブラリーカードを作成する必要がある。リサーチコレクションの閲覧スペースへは、荷物を預けて入室し、レファレンスカウンターに資料請求書類を提出し閲覧することができた。また、コピーカードを購入してコピーをすることができた。スクラップなどの資料は製本されておらず傷みやすいためと、希少性から職員によるコピーに制限されていた。

3. 今後の計画、展望

今回の調査では、TBDCで行われている夏季集中クラスの参与観察を行うことで、現在行われているTrisha Brownの教育活動に加え、過去の舞踊作品の創作過程についてもその実際を知ることができた。収集した情報を整理し、分析を行っていききたい。

テクニック&レパートリークラスの参与観察によって得られた資料については、これまで調査してきた文献資料の言説を照らし合わせることで、Brownの身体観の一側面である、ダンサーに求められる身体的技能がどのようなものであるかを明確にすることができるのではないかと考えている。

また、コンポジション&インプロビゼーションクラスの参与観察では、Brownの旺盛な創作活動の内側である、作品創作の方法論を知ることができたことが非常に有意義であった。過去にTBDC開催されていた集中クラスのコンポジションやインプロビゼーションのクラスでは、TBDCの舞踊作品とは特に関連性のない活動が行われていた。しかし、今回の調査で参与観察を行ったクラスでは、かつて実際にその作品が作られた手法を、その当事者であるオリジナルメンバーから学ぶことができた。今回得られた資料は、これまでに発表したBrownの舞踊作品の創作過程をめぐる研究の裏付けとなる非常に有意義なものとなるため、早急に整理するとともに分析していききたいと考えていえる。

さらに、スタジオ・ショーイングという発表の場が設けられていることにより、舞踊芸術活動に存在する、身体的トレーニング、作品創作、発表という一連の活動を通して得られる舞踊家としての探求の全体的プロセスを体験し学ぶことができた。

舞踊芸術活動の全体的プロセスをダンサーが経験することで獲得される技能の多様性と範囲の広さを体感することができたのはとても貴重な機会であった。今後、Brownの教育活動の実際から身体観を探るにあたり、彼女がダンサーの身体に求める技能の多様性と範囲の広さを明らかにする上で言説を実証する資料として用いていききたいと考えている。さらには学位論文において、彼女にとって舞踊という創造的活動とは何かについて明らかにし、旺盛な創造的活動を続けることを可能にするTrisha Brownの思想と実践を考察していく重要な手掛かりになると考えられる。

レクチャー&ビデオ上映でのクラス講師である元カンパニーメンバーのコメントやインタビュー調査で得られた言説資料については、今後Trisha Brownの教育方針や理念を考察する際にも非常に有効な手掛かりとなることが期待できる。

夏季集中クラスで配布された文書資料とニューヨーク公立図書館で収集した資料についても、今回の参与観察によって得られた実践方法や体感を明確に言語化するため、また、理論と実践をより正確に考察するために、これまで集めた資料と合わせ役立てていきたい。

今回の調査による研究成果については、査読論文や学会発表において公表していきたいと考えている。また、学位論文において、これまでの研究を発展させ、より精緻な舞踊家 Trisha Brown の思想の根幹をなす身体観の検証につなげていきたい。

注

1. 2008年8月23日 in NY カンパニーメンバー Todd Stone に対し、本人自宅にて行ったインタビュー調査より。
2. 雑誌 2006『ダンスマガジン』p66にて三浦雅志が Trisha Brown との対話で語った。
3. この成果については、(2009)「Trisha Brown(1936-)研究—劇場舞踊作品《Set and Reset》(1983)の創作過程に見る作品創作意図」『人間文化創成科学論叢第11巻』p 67-77 にまとめ発表した。

参考文献

- (2002) *TRISHA BROWN : DANCE AND ART IN DIALOGUE , 1961-2001*, THE MIT PRESS Massachusetts Institute of Technology Cambridge Massachusetts.
- (1998) *TRISHA BROWN : DANSE, PRECIS DE LIBERTE*, Musees de Marseille – Reunion des musees nationaux, Marseille

しらさわ まい／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

指導教員によるコメント

報告者である本学生は、舞踊家 Trisha Brown について卒業論文、修士論文から継続的に研究を行ってきている。これまでに、実践的アプローチを含め Trisha Brown の調査研究を行い作品創作意図や身体観に迫る思想研究を進めてきた。

今回のプログラムを利用して行った実地での参与観察とインタビュー調査による資料は、学位論文提出にあたり、これまでの研究成果の検証と、最終的な思想をまとめ上げていく際に有意義な資料となり、研究の成果が期待できる。

Trisha Brown Dance Company で行われている教育実践の実際を確認できたことは、Trisha Brown がダンサーにどのような踊る身体を要求しているのか、その理論の中心となる身体観をより正確に考察する重要な手掛かりになったと考えられる。特に、晩年を迎えた Trisha Brown が引退を公表した現在、今後このような調査を行う機会を得ることは困難であると考えられ、貴重な調査であったと評価できる。

(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科文化学系・猪崎弥生)

Trisha Brown's View of the Dancing Body : Focusing on the Educational Activity

Shirasawa Mai

This overseas research examined Trisha Brown's view of the dancing Body by focusing on the educational activity in Trisha Brown Dance Company. In this research, I did participant observation of Summer Intensive Class which the educational activity currently opened in Trisha Brown Dance Company and interviewed to current and former Trisha Brown Dance Company members who taught the classes. The 2013 Summer Intensive class was designed to explore the process and forms inherent in Trisha Brown's body of work. The classes offered students a deeper knowledge of technical movement principles, compositional structure, and improvisation. It has become clear that Brown's view of the dancing body.